

10代の母という 生き方 ⑨

大川 聡子

★まえがき

前々号（マガジン 17号）から若年母親へのインタビューを基に、若年母親が持つ社会的経験の特徴と、ピアグループなどの友人を含めたインフォーマルサポートの機能について分析しています。対象者の概要・研究の背景につきましては、マガジン 17号をご参照ください。本号では、若年母親が出産後に抱える課題にどう対峙していったのかを記述します。

第4項 母親としての自己認識形成と社会行動の変化

(1) 【摩擦を解消するための戦略】

① 《夫との摩擦を解消するための戦略》

若年母親は、主に家事や育児の分担を通じて夫との摩擦を起こしていますが、こうした摩擦を解消しようと、妻側から夫に働きかけることで、夫との関係を構築していました。同様の語りは多くみられ、妊娠中から出産後にかけて様々な時期において、お互いを理解し合い、夫との関係を深めていく過程がみられました。

〈夫の立場を押し量る〉

1さん 旦那に対して、「お前何もせん、何で何にもせえへん、何で分かってくれへんの、私の気持ち」って思ってる時点で、もう自分、自分やから。でも、それって結局自分がしんどいねん。相手の事思えてないから、それは。旦那の方が仕事大変やねんでって、やっぱり思うことは必要やな。思いやり。旦那の方が仕事も大変、遊んでるけど仕事大変やねんでって。

Iさんは、結婚当初は自分の気持ちを分かってもらえない夫に腹を立てていたのですが、仕事をしている夫の立場を理解し、遊ぶことも仕方がない事と考え、夫に対する思いやりを持つことが必要であると考えていました。

〈手伝ってくれたことを褒める〉

Bさんは、自分だけでは家事も育児も全部できないと主張し、夫と2年間話し合いを続けました。そのことにより、自分のできる範囲を夫に理解してもらうことができ、部屋が散らかっていても、夫は何も言わずに片付けるようになったと言います。夫のする「片付け」が十分なものでなかったとしても、その姿を見るだけでBさんは気が楽になっており、夫を褒めることで、夫自身も喜んでいる様子が垣間見えます。このように、Bさんは夫を褒めたり、自分自身ができる範囲を主張することで、夫と家族内の役割を調整していました。

Bさん 「そんなんな、家のことにしてもそやし、そんなん全部私でけへん」っていうのを2年くらい言い続けて、「手伝ってくれなできひん」ってことも言い続けたら、なんか理解してくれたみたいで、あんまり何にも言われへんのやんか。家がぐっちゃぐちゃになっても、何にも言ってけえへんし。なんか、(夫が)ちょっと片付けてみたり。でも、旦那の片付け方は、その場所は片付いてんねんけど、その周りが汚れていくねんけど。でも、そんなん見てても「あ、やってくれてるんや」って思うだけで、気、楽になるし。(略)男の人って単純やなって思う。何かやった時に、「いやー、めっちゃきれいになった。ありがとう」って言っただけで。

Nさん めっちゃ喜ぶ。

Bさん めっちゃうれしそうな顔して(笑)。

②《義父母との摩擦を解消するための戦略》

〈夫に気づかれないように関係を調整する〉

Bさんは、義母宅に行く時は夫に同伴してもらい、夫から義母に意見してもらうように仕向けていました。夫は、妻がこうした調整役を果たしていることには気づいておらず、気づかない方が本人も楽だろう、とBさんとはらえていました。

Bさん 旦那がおる時に(義母宅に)「一緒に顔出しに行こう」っていうふうに言った。旦那がおったら、絶対何も言ってけえへん。旦那が怒るから。(略)。

司 会 ご主人が防波堤になってくれてる？

Bさん うん。でも、分かってない。あんまり。事の重大さっていうか。(略)旦那には気づかせないように、そうなってもらおうって思ってるのもあるし。気づいてしま

ったら、間に挟まれてるって言うんで、すごくしんどくなると思うから。気づかんうちにそうしておけば、Bも楽やし、旦那も楽だなって思う。

また、Cさんも義母との折り合いの悪さについてこう語っていました。

Cさん（義父の一周忌の時に、「恥ずかしいから来るな」言われた。私。(略)一周忌がお盆にあって、その時に私の姉貴とおかんは来てもいいけど、私は「腹がでかいから、恥ずかしいから来ないで」って言われた。

Cさんはこの件に関して憤慨し、結局義父の一周忌にCさんの家族はだれも参加することにはなかったそうです。こうした、若年出産することをめぐる夫の家族との葛藤が、家族間の関係にも溝を作っています。

③《年長の母親との摩擦を解消するための戦略》

〈保育所の役員を買って出る〉

Nさんは、「自分達が(年上の親達に)合わせなければならない」ことを認識しており、その解決策として「(保育所の)役員になること」を挙げていました。役員として参加することで保育所の母親と関係を構築し、「若い母親」でない、自分自身を分かってもらおうと努力していました。

Nさん（保育所の）役員とかやったら、結構強い。(略)私、なめられたらイヤやから、結構参加するようにはしてんのやんか。仕事終わって連れていっても、「お母さん、すいません」とか、普通に言ってくれるから。「若いのに頑張ってるねんな」みたいな感じで言ってくれるから。極力参加はする。そういう、行事ごとみたいな。参加せえへんかったら「やっぱ、若いから」って言われるし。(略)役員は強い。ほんで、役員真面目にしてたら、結構良く思ってくれる。

Dさん しっかりしてる。

また、DさんはNさんのこれらの発言に対し、とても感心したとインタビュー後にスタッフに伝えていました。グループはこのように、若年母親としての生き方を学ぶ場にもなっていました。

(2)【将来を見越した生活設計】

出産したことにより「生活が180度変わった」と述べていたメンバーがいるように、夜型から昼型の生活になった、子どもがいない友人と遊ばなくなった等、母親たちの生活リズムは著しく変化しています。「今までやってきたことが恥ずかしいこととか、分かって

きた」と言い、自転車に乗りながら煙草を吸わなくなったことや、「子ども連れてたまっ
とったら痛い」と言い、コンビニエンスストアの前で座って話をしなくなったことなど、
行動面の変化を挙げている人もいました。また、お金の大事さや常識を学んだなど、価値
観の変化を挙げている人もいます。さらに、「今の生活では2人目は考えられない」と言
い、将来を見据えた家族計画を行っている母親もいました。子どもを出産し、母親となっ
たことが、こうした行動面の変化をもたらしたと考えられます。

① 《社会性を身につける》

〈家事ができるようになった〉

それまでは全く家事をしなかったIさんは、出産を機に料理をするようになったとい
います。

Iさん 母親になって変わったと思うこと。料理ができた。

司会 それまではあんまりやらなかった？

Iさん 全く家事せえへんかった。

〈お金の大事さが分かる〉

出産後は無駄遣いをしなくなったという母親が複数いました。

〈生活リズムを整える〉

出産前は丸一日寝ていたが、睡眠時間が減ったと述べている母親もいました。

② 《生活基盤を整える》

インタビューにおいて、ホームヘルパーの資格を取りたいという声が複数聞かれました。
専門職の中でも比較的取得が容易なこと、身近にホームヘルパーの有資格者が多いことが、
関心の高さにつながっていると考えられました。

〈ホームヘルパーへの高い関心〉

司会 今後こんな資格が欲しいとか。

Lさん ああ、ヘルパー。

Bさん ヘルパー取んのやったら、介護福祉士まで取ったほうが絶対いいと思う。

Cさん でも、ヘルパー持ってたら、とりあえず働けるしな。で、とってくれる。けど、
持ってる人が今多いから。

〈利用できる公的支援を駆使する〉

Bさんは、公的支援を自分で全て事前に調べてから窓口に行き、公的支援を有効に利用できるように交渉していました。

〈保証がないための生活設計〉

Bさんは、夫の仕事に保障がないことから、若い時の生活設計は必須であると考えていました。現在は賃貸住宅に住んでいますが、今後は家を購入することを考えています。Bさんは、家を購入するまでにお金の掛かることは先にすませてしまいたいと考え、実行していました。

Bさん 若いうちに(生活設計)やっとかんと、旦那の仕事が何にも保障がないから。家とか買っとかんと。(略)やっぱ家ぐらいあったら固定資産税だけで済むから。後々ローン払い終わったら。固定資産税も年間大体12万ぐらいやから、月1万って考えたら、やっぱどの家借りるよりも結局は安いしとか思って。だから考えるけど、難しい。

司会 すごい堅実ですね。

Bさん 考えな、やっていかれへんし。

(3)【母親役割を重視した友人との関わり】

グループにおける若年母親は、新しく来たメンバーに積極的に声をかけ、友人関係を築こうとしています。新しいメンバーも、初めは若年母親特有の派手な髪形や服装に圧倒されるようですが、何度か会ううちにうちとけ、グループ外でも交流を持つようになっていきます。

①《友人の条件》

〈家族のペースを崩さず付き合える人〉

母親達は、交友関係についてしっかりと自身の判断基準を持っており、「世間知らずな子」や「常識のない子」とは付き合えないと言います。母親達は、夫と子どものいる家庭を重視しており、家族のペースを崩すまでの交友関係は求めません。そして母親達の中でも、同じような生活リズムを持つ母親と親しくなる傾向があります。

Bさんは、グループの中でもCさんなど気が合う友人と、トラブルの際に助け合うなど深く交流していました。

司会 友達とかは？

Bさん 幅広く作るのめんどくさいし。人の好き嫌いが元々激しいのもあるけど。あかんって思ったらあかんし。友達増やしたら、その分合わせなあかんところって

あるやん。それが自分の生活基準の中で合わせれるんならいい。生活崩してまで合わせなあかん時って出てきそうで嫌や。自分の生活は自分で崩したくないし、Bが崩すってことは、子どもやったり旦那やったり、やっぱり迷惑かかるから。

〈社会性のない友人との決別〉

出産を経て多くの母親達が「独身の友人は常識(社会性)がない」ことを指摘し、独身の友人達とは考え方が変わったといいます。Gさんは、「まだ怒ってキレル」周りの友人に対し、我慢がないと評していました。

Iさん 普通の独身の子らの考えが、なんか…。

Dさん やっぱり、ちょっと違うな。

司会 どんなところが違うと思います？

Nさん お金のこととか、社会的なこと。

Nさん、Iさん 常識。

司会 常識がないなあと思う？

Nさん 思うことは多々ある。

Gさん すぐまだ、怒ってキレたりする。しょうもないことでも。我慢がないっていう。周りの友達。

また、生活時間帯の変化についての語りも多くみられました。母親たちは「独身の友人とは時間帯が合わない」、「夜型の子ばかりで、ついて行かれない」と言います。独身の友人達側も気遣っている様子が見られますが、生活形態が異なってしまったため距離を置かざるを得ない状況になっています。

②《グループ初参加の印象》

〈一見入りにくい気さくなメンバー〉

新しく入ったメンバーは、グループ参加当初は、若者らしい髪形や服装のメンバーに圧倒された様子でした。しかし、メンバーは新メンバーに積極的に声をかけ連絡先を聞いたり、グループ終了後にメンバーが行くファストフード店やカラオケボックスに誘ったりしています。こうしたつながりを通して、新メンバーも徐々にグループになじんでいき、グループ外でも相談し合える仲間作りができていました。

Kさん なんか、(メンバーは)自分の思ってるお母さんっていうイメージと全然違うかったから。

Eさん しかも、そんな若いおかんを集団で見ることとかないもん。あんまり。

Kさん 見たことない。だから、「え、なんでこんなみんな普通やん」と思って。

Fさん あと、みんなグループみたいになって何か入りづらかった。みんな「おう」みたいな感じで。(笑)

Kさん そうそう。そうそう。そんなんやった。

Aさん でも、気さくや。

③ 《仲間が支える母親としての成長》

〈友達の輪が広がる〉

NさんとIさんは中学校の時に同じ運動部に所属しており、出産前から友人関係にありました。NさんとIさん以外にも、グループに来る前から知り合いだったり、夫同士が同級生や兄弟であったりと、地縁によるつながりが深く、友人も容易に作る事ができている人が多い様子でした。さらに、グループ「B」に参加することで、母親同士の友人の輪をさらに広げることができていました。

Nさん 産んだ時に、(Iさんとは)仲良かったから、中学の時から。だから、言うたら1人は絶対協力っていうか、Iが協力してくれたから。安心はできて。3ヵ月の時点でここ(グループ)に呼んでもらってたから、そこでママ友達がバって広がったから。それが、すごい助かったかな。ママ友がすぐできた。

〈親でなく友達に相談する〉

グループ内外でも友人の多いAさんは、親に本音や嫌なことは相談したくないと言い、相談する相手は友人と決めています。このことから、トラブルがあれば親よりも友人を頼りにしている様子がうかがえました。

Aさん 精神的しんどい時は友達。なんか、親には本音っていうか、嫌なこととか言われへんくない？(略)自分が悩み抱えていることとかは、親には言いたくない。そういうのは友達。だから、自分の中で使い分けてる。それは。

〈育児は自己流で行う〉

母親達は育児に困難を感じても、育児書には頼らず、自分の親に聞くこともあまりありません。まず友人達に聞くか、自分自身で解決しようと努力します。こうした対応をとる背景に、親との関係が希薄であったことも一因としてあるのですが、若い母親同士の横のつながりが深く、気軽に相談できる友達が周囲にいることも、理由の一つと考えられました。

Bさん とりあえず(育児は)自己流やもん、みんな常に。

Cさん 本当に分かんなかったら、周りに聞くやろ。親に聞いても、親のころとやっぱり考え方は違うし。

Bさん 子ども一人一人バラバラやから、あんまり資料とか見たところで、それのとおりにならへんかったら、逆に不安になったり、ムカついたりするから。とりあえず自分なりにやってみる。

Cさん 分からんかったら。

Bさん とりあえずあきらめる。無理やったら。「もう、いいわ。どうにかなるやろ」って思うから。

〈自分らしい母親像を構築する〉

司 会 こんなグループあったら、友達とかは誘う？

Kさん 最初、妊娠分かった時って、「しっかりせな」って思うやんか。「大人にならな」思って、「お母さんになるんやし」と思って、親とか話聞いたり、勉強したりしたら、「こんなんではあかんのや」って、「自分の今までのんじゃあかんのや」と思って、改正しようかなって思っていた時にここ(グループ「B」)に来たから。「こんなんでも大丈夫」やっていう余裕。親を見てるから。親みたいにならなあかんと思ってるから。でも、大丈夫やった。

Kさんの場合、自らの母親を理想像とし「しっかりした」母親になろうと話を聞き、「勉強」していました。しかし、グループにおいて、若年出産した母親の接し方を見ることで、完璧に家事や育児をこなす母親の理想像を目指すのではなく、これまでの生活の延長線上で、徐々に自分らしく母親になっていけばよいことを学んでいました。このように、グループにおいて他の母親の姿を見ることが、自分らしい母親像を構築する機会となっていました。

(4)【子育てを通じた自己評価の向上】

若年出産した母親は、母親として日々を送っていくことや、友人達との関わりを通して、母親であることに自信を持つことができていました。

〈母として子どもを守るべき存在〉

Bさんは、出産したことで意識が変わり、自分の楽しみよりも子どもを中心に考え、母親として子どもを守ろうという意識が芽生えていました。

Bさん 若いころは、自分がよかったらそれでいいとか、今が楽しければそれでいいとか、そんなん思って無茶とかしとったけど、母親になって実際この子が産まれて、やっぱり守らなきゃって意識が出てくるから。

〈逃げ出せない育児を経験して強くなる〉

Nさん、Iさんは子どもを産んだことで、人生が変わったと言い、「しんどいこと」に向き合うことができるようになったと言います。子どもを育てるという経験が、母親たちの姿勢を変える契機となったと言えるでしょう。

司 会 (育児は)投げ出されへんもんね。誰も受け止めてくれへん。親代わりしてくれる人いないもんね。

Nさん そやな。だから、しんどいことから、すぐ逃げてたけど。

Iさん 逃げられへんくなった。

Nさん 逃げられへんから。もう苦しんでも。育てていかなあかんていう。だから強くなれるんかもしれへんけどな。

〈自らの生活基盤を整えたことに自信を持つ〉

Bさんは、自分なりの生活基盤を持つことで、子育てに自信を持つことができ、若年出産したことに対する、周囲の様々な反応に慣れてきたと言います。

Bさん 今、子どもが2人になって、まともに生活やってきてるって。別に誰かにお金借りてるわけでもないし、助けてもらってやってきてるわけでもない。そら、こちょこちょ助けてもらったりしてる部分はあるけど、自分らで生活の基礎つくって、自分らなりの子育てしてやっていってんねんから、別に恥ずかしいことしてないっていう、自分らに自信でてきたから。

〈母親になることで自己肯定できた〉

Bさんは、出産するまで自分のことは「どうでもよかった」と言いますが、出産し母親となる中で、自分自身を大事にしなければ育児ができないと考え、自分自身を大事にしようと思うようになったそうです。Bさんにとって母親になることは、自分を肯定する機会となっていました。

Bさん 自分のことがすごい大事になった。B自身が。昔は別にどうってことってなかってんけど。自分のことなんかどうでもいいって思ってたけど、そういうわけにはいかんくなってきたし。なんか、自分自身大事にしやんと、子どものことも見られへんと思うから。すごい自分が大事やなって思えるようになったのは子ども産んでからやし、この子らのおかげかなって思う。

司 会 それまではあんまり自分のこと、まあ、「自分なんて」みたいな？

Bさん うん。どうでもよかったもん。別に。

*プライバシー保護のため、データを一部改変しています。